

地域福祉に関するご意見まとめ

※策定委員会…「策」、地区懇談会…「地」、区民アンケート…「区」、専門職アンケート…「専」

テーマ	意見収集先				課題・解決策	意見
	策	地	区	専		
地域のつながりの再構築 見守り、声かけ		○	○	○		町会、民生委員間の見守りなど、専門職ではない方々のゆるやかな気づきの見守りネットワークがあると良い。
		○	○	○		地域における子どもの安全確保が必要。
		○	○	○	○	マンション住民に接触しづらい、地域の催しに参加する人が少ない。まずはマンション住民が集まる機会等での相談窓口の周知や、連携の取れる住民・管理人との日頃の情報共有等により地域の見守りの重要性を伝えていきたい。
		○	○	○		見守り対象者はひとり暮らし高齢者だけではない(8050、老老介護などの問題にも目を向ける必要がある)
		○	○	○		関係構築には、一定のプライバシーの配慮が必要。
		○	○	○	○	商店、薬局などの日常적인見守りも大切。気になる人がいた際に、民生委員・支え愛・ほっとステーション・在支などへの連絡の徹底、情報共有の必要性を周知していく。
		○	○	○	○	まずは、あいさつをし合う関係づくりが重要。
		○	○	○	○	顔の見える関係づくりによる見守りのほか、防犯カメラなど機械による見守りも犯罪の抑止になる。
		○	○	○	○	家族関係の希薄化が問題だと感じる。
		○	○	○	○	遠くの親戚より近くの知り合いとのつながりや声かけが大切だと感じる。
		○	○	○	○	おせっかい、おもてなしの心を大切にする。
		○	○	○	○	困ったときに隣近所に相談でき、解決できることが理想。
		○	○	○	○	一部の町会では様々な見守り活動が行われている。地域を各担当が分担して訪問する活動や、サロン活動だけでなく、日常生活の中で目を配り、気になる人がいるときに見守りの中心の人へ情報を入れる体制で若い世代への意識付けを推進している町会・自治会もある。
		○	○	○		要支援配慮者の把握、災害時の人員手薄が心配。
		○	○	○		町会で災害実践編の訓練をやったが、車いす利用者の方へ見守りに行くなど、要配慮者の支援がどこまでできるか、町会内の状況を把握していないと避難経路もつかめないなど、課題がたくさん見えた。
		○	○	○		見守り等の訪問を拒否され接することができない人が地域で問題になることが多い。
		○	○	○	○	接点がない世帯に対しては、まずは挨拶などから話しかける習慣を作り、専門職や近隣の方など周りの人のうち、1人でも話しが出来る人をつくりながら、顔つなぎを始める取り組みが大切。
	○	○	○	○	地域の方から「最近〇〇さんがちょっと心配」などの声をもらえるだけでも(相談員)活動の支えになっている。だれもがちょっとした気づきで見守りの担い手になり得る。	
	○	○	○	○	子どもと地域の人たちで挨拶しようという取り組みをある中学校で始めたところである。現在はたすきをかけた人が当番とわかるようにしているが、理想は「高齢者が家の外に出ていたら(たすきをしていなくても)登校中の子が自然に挨拶をして、お互いが見守り合うまち」になること。高齢者も児童・生徒を見守ることにより「支え手」側になると思ってもらえると良い。	
	○	○	○		個人情報保護も大切だが、その人自身の人権や危険を保護することも大切。	
	○	○	○	○	要援護者名簿では、緊急時や災害時にどこまで踏み込んで良いか(鍵を壊したり窓を割ってでも安否を確認するか)わからないため、見守り方法のアンケート実施などにより、町会内での対応を検討・認識し合う。	
		○	○		近所付き合いが薄く、情報が取りにくい。町会の大きなくくりでなく、5~6世帯での小さな集まりを推進してはどうか。	

地域福祉に関するご意見まとめ

※策定委員会…「策」、地区懇談会…「地」、区民アンケート…「区」、専門職アンケート…「専」

		意見収集先				課題・解決策	意見		
テーマ		策	地	区	専				
地域のつながりの再構築	交流		○	○	○	○	多世代交流が大切。イベント等の際は高齢、子どもなど分野や、対象年齢などの枠を固定しすぎない。多世代交流で子どもたちに顔や名前を憶えてもらえるようになると喜ぶ高齢者が多い。		
			○	○	○	○	子どもをきっかけにした地域活動を増やす。現役世代の親も一緒に地域活動に参加する可能性が高い。		
			○	○	○	○	○	仲の良い人たちの集まりに新しい人が入りづらい雰囲気がある。(昔からの住民と転入者、伝統と新しいものの融合、共存)	
			○	○	○	○	○	外国人住民の増加。地域の活動へ参加してもらう周知の工夫が必要。	
			○	○	○	○	○	新たに参加してもらうために、知り合いからの声かけ、きっかけづくり、敷居を低くする。	
			○	○	○	○	○	地域と学校の連携が大切。	
			○	○	○	○	○	集いの場は、いつも行かなくても良い場所であってほしい(参加の義務化、監視にならないような工夫が必要)	
				○	○			○	近隣でサロン、イベント開催(開催場所を固定化せず、移動式にする)
				○				○	参加メンバーは女性が多い。男性の参加を増やすための工夫が必要。高齢者男性が参加したくなるような行事(酒席、麻雀、競馬観覧等)を開催する。
				○	○			○	町会と高齢者クラブの参加者が固定化している。7割近くの参加者がかぶっている。
				○	○			○	多彩な活動内容にする。参加したいと思ってもらえるきっかけをたくさん用意する。
				○	○			○	参加することにより、楽しい、面白いなど自分のメリットになる活動にする。
				○	○			○	慣れているところには抵抗なく参加でき、行ってしまえば楽しいのだが、慣れていないところに一步踏み出すのが難しい。
				○	○			○	町会、高齢者クラブなど、役員(特に会長)の負担が増えすぎている。先を見据えた分担できる仕組みにしなければ継続しない。(新たな担い手として65～70歳くらいの方が早めに役員になってくれるとうまく引き継げる)
				○	○			○	区有施設以外での開催場所、開催方法の検討(公園なども活用し、屋内にとられない)
				○	○			○	認知症カフェなど、誰もが参加できる開かれたイベントの開催が増えると良い。
				○	○			○	イベントに参加する人に運営側に回ってほしいという思いはあるが、まずは参加者を増やすことが大切。イベントが楽しければ、毎年(毎回)行こうと思う。そうして地域活動に出続けてもらうことが第一歩。
				○	○			○	若い世代が手伝いに少しずつ入ってきてくれるようになった。毎回強制ではなく、参加した行事の準備や片付けなどほんの少しでも手伝ってくるとありがたいと感じる。「できるときにできることをやればよい」という風に見せることが大切。
				○				○	地域で活用できる施設(学校など)の予約が簡素化されればより有効活用されると思う。
					○	○		○	人との交流が苦手な元気高齢者の居場所が少ない。図書館等以外にもデイサービスや地域サロンやフリースペースのようにいった先で何かをするのではなく、ただの場所、というのも必要だと感じた。
			○	○		○	引きこもりぎみの男性高齢者を多く見かけ、地域交流等への参加の声かけをしているが、なかなか外に出られない。顔見知りの方が定期的に訪問して話しながら、地域行事の案内を行っている。		
			○	○		○	児童センター利用者が成長し、大学生になってからも事業のスタッフや協力者となっている青年がいる。児童期から異世代交流を重ねてきて、地域内の大きなマンパワーとして育成されている世代の協力展開が出来ると良い。		
			○	○		○	小学校高学年から中学生(不登校の児童・生徒も含む)が気軽に立ち寄れる場が少ない。児童センターは幼児親子や低学年が多く居づらく感じてしまう様子なので、町会会館等の空き時間に学生の居場所や学習場所、乳幼児親子の集える場として提供する。町会や地区委員の活動は高齢者の方が多く、若い世代は自分がどこの町会に属しているのか、地域のことを知る機会も少ない。中学生に場所を提供する際に、地域の方が見守りやサポーターとして交流できると良いと思う。		
			○	○		○	長年就労してきた障害者は卒後ずっと働いていたため、地域とのつながりが少ない。体が元気であれば高齢サービスを受けづらく、居場所がほしいと思う方向けの高齢障害者サークルなどがあると良いと思う。		
			○			○	高齢者や子どもにのみ優しいので、広い年齢層(15～60歳など)で楽しめるまちづくりをしてほしい。		

地域福祉に関するご意見まとめ

※策定委員会…「策」、地区懇談会…「地」、区民アンケート…「区」、専門職アンケート…「専」

テーマ	意見収集先				課題・解決策	意見	
	策	地	区	専			
地域のつながりの再構築 生活支援	○	○	○		○	ボランティアの運営(担い手不足への対策)は、情報提供の方法や有償化など、やり方を変えれば担い手が増えると思う。	
			○	○	○	○	ボランティアの担い手の対象として、中学生の力を取り込む。小中一貫校などでは中学生の対応を見ながら、小学生でもできることを考えられると思う。
			○	○	○	○	子ども食堂、地域食堂の開催を場所・回数ともに増やした方が良い。
			○	○	○	○	子ども食堂や児童センターなどへ、本来、来てもらいたいと思っている対象のお子さんが実際は来ていないように感じる。
			○	○	○	○	地域交流の意欲がある人でも、会場へ自力で行けなくなっていく人がいる。外出の付き添い支援や、話し相手のボランティアなど別の支援へスムーズに移行できると良い。
			○	○	○	○	退職後の世代(70歳前後までの方)で日常的に寂しがっている人が多いと感じる。話を聞くだけで解消されることもある。
			○	○	○	○	近所のスーパーが改装中に買い物に困る方の声をたくさん聞いた。その際に、地域の声により企業が改装までの期間、定期的に移動スーパーを手配してくれて大変助かった。
			○	○	○	○	注文販売はインターネットなどが主流になっているが、買い物に行けない人はインターネットもできない人が多い。電話1本で届けてくれるサービスがあると良い。
			○	○	○	○	ごみ出しについて、分別ができなかったり、収集日以外に出してしまう認知症の方へ組織化したボランティアにより対応できると良い。
			○	○	○	○	高齢化した町会の余暇活動(日帰りバス旅行等)に同行し、ちょっとしたお手伝い(バスの乗り降りなどの際に手を貸す、必要に応じて車いすを押すなど)してくれるボランティアの組織化。学生ボランティアを募るのもひとつの手段と思われる。そうしたボランティアがいることにより、余暇活動に気兼ねなく参加する高齢者も増える。
			○	○	○	○	複数人で対応する案件に対応できるボランティアがなかなか見つからない。多人数が集まる場で募集することで顔見知りややるならやってみようという心理が働き、人員を確保しやすくなるのではないかと思う。
			○				外国人に対してアナウンス、資料等は英語、その他の多言語対応があるとよい。鉄道事故等の突発の場合も、多言語対応の配慮があるとよい。外国人の高齢者の生活支援サポート体制が整うとよい。
			○				若い人がもっと町内会活動、ボランティアに積極的に参加してほしい。
			○				ボランティア活動に興味はあるが、資格がないので、そういう人たちに向けてのセミナーなどがあると参加しやすい。
			○				自身の英語等の語学、技能、資格などを生かしてボランティアに参加したい。
			○				自分が福祉に貢献できるとは思っていなかったが、簡単なこと、少しの時間でも良いなら力になりたい。ボランティアのハードルを下げる。
		○				定年退職してボランティアに参加したいが、どう動き始めたらいいのかわからないという人がいる。	
		○				子どもが小さいうちはボランティアとかの協力は難しく、逆に受ける側になってしまうかも。子どもの手が離れたら時間はあり、恩恵を受けたからこそ協力しなければという気になる。社会全体として助け合えるようなサイクルの社会になるといい。	
		○				忙しくて、活動したいけどできない人は多い。仕事とプライベートのバランスをとることができればベストだと思う。日6時間勤務で生活が守られれば、時間、労働、子育てのすべてが充実する。	
		○				仕事をしている一人暮らしだと、役所などの受付時間や郵便局の受付時間など仕事に行けないことが多く不便だったり、ごみ出しの時間、日時なども生活時間と合っていないかったりする。家族に優しくてもひとり身には優しくない。	
				○		犯罪をした者の更生施設からの戻る場所である引受人にはに老親の場合が多いが、拒否される場合もあり、犯罪をした者の更生の道の険しさを感じる。	

地域福祉に関するご意見まとめ

※策定委員会…「策」、地区懇談会…「地」、区民アンケート…「区」、専門職アンケート…「専」

テーマ	意見収集先				課題・解決策	意見
	策	地	区	専		
地域のつながりの再構築 市民学習・理解促進	○	○	○			他人への無関心、人と関わり合いたくない住民への理解(一緒に何かやるということを嫌がる、群れたがらない人が多い)
	○	○	○			高齢者・障害者の施設と地域との日常的なつながりが大切。どのような施設が理解すること、温かい目で見守る態勢になると良い。
	○		○			町会について固定観念を持つ人が多く、良いイメージに転換することが困難。
	○		○		○	障害者への理解、偏見をなくす取り組みが必要。(障害者本人の出来ることを確認して、必要な手助けをする。健常者が特別視しすぎない。)
		○	○			障害者の住む家庭と地域のつながりが大切。
		○				成年後見制度利用への偏った(悪用などの事案)知識が広まっており、正しい制度内容を周知していくことが必要。
			○	○		成年後見制度や住み替えなどは早めの準備が大切。元気うちに自分の将来を見据えたライフプランの周知・理解促進が大切。「まだそんな年ではないから…」と思うような人に聞いてもらえるような伝え方の検討が重要。
			○		○	児童にボランティア学習を体験させられる場・連携先があると良い。
				○	○	路上駐車、段差が多い道路、整備されていない歩道、自転車のルール・マナーの不徹底など、歩行が困難な方や視力聴覚障害の方にとって大変危険な場所が多い。狭い区内で仕方がないこととも思うが、高齢者、子ども、障害者には歩くだけで危険が伴うことを理解してもらいたい。
				○	○	昨今、福祉の仕事を希望される方が減少しており、支援が必要な方は増えているのに働き手が不足すると今後どうになってしまうのか不安がある。
					○	区内のお祭り等で福祉の魅力ややりがいのアピール活動を実施できればよいと思う。
				○	○	社会との関わりなどがなく生活してきた知的障害者について、本人の存在を家族が隠してしまったり周辺の者が触れることなく来た場合、両親・家族の不在時には具体的支援や本人のQOLが失われてしまう。
					○	そうした事例の解決として、目先を少し変えた「抱え込みや虐待等への通報先や相談先」の周知(公園、スーパー、ゲームセンター、駅、図書館、ファーストフード・喫茶店・ドラッグストアなどのレシート裏やトイレなど、これまで行ってこなかったような方法)が必要。当事者だけでなく、近所の人や地域で気づいた人が、連絡したり相談したりできる場を知りやすくする。
			○	○	昨今、児童虐待の発生件数が増えているが、区民全体の児童虐待の防止意識の向上に取り組んでほしい。	
				○	外国人が増えているので、お互いの文化を共有するイベントを増やしてほしい。	
			○		外見だけでは判断できない心の病を持つ人に対しては、下手に踏み込めない部分も多いため、助け合いたいと思っても現実にはなかなか難しい。ひきこもっている人等にはアプローチできないし、家族も隠してしまう。理解しあえるよう、お互い知識を持つことも必要だと思う。	

地域福祉に関するご意見まとめ

※策定委員会…「策」、地区懇談会…「地」、区民アンケート…「区」、専門職アンケート…「専」

テーマ	意見収集先				課題・解決策	意見
	策	地	区	専		
多機関・多職種 の連携	○	○	○			気になる人がいるときに、どこに相談すればよいか、わかりづらい。
	○	○	○		○	孤立している人がいないように、個人、家庭に外部の誰かがつながっている状態になると良い。確実につながる場所(24時間対応相談窓口)があると良い。介護サービスや地域との交流や関わりを持っていない人への支援について、行政や専門職だけではカバーしきれないと感じる。
	○	○	○		○	同じ圏域内(地域センター、町会単位)の団体がどういった活動をしているかあまり知らない。組織間の情報共有、ディスカッションする場があると、より連携できるようになると思う。
	○		○		○	縦割りのサポート体制でなく、全方位、包括的なサポートのまちづくりが求められている。高齢者支援の体制に、子どもや障害者分野のネットワークも入り、多職種連携が出来ると良い。
	○		○		○	専門職、非専門職の連携が必要。専門職も関わりづらい方、多問題を抱えている方への対応・解決策が必要。(日常の家計管理が難しくなってくる高齢期のマネープランニングや認知症の独居高齢者の衛生面を含めた生活支援等)
	○					義務教育後のひきこもりの発見が困難。
		○	○		○	相談拠点の設置だけでなく、自分たちの活動の際に相談員が来てくれると話しやすい(出張相談会の開催)
		○	○			多問題家族に関わる際にはキーパーソンを見つけ方が困難だが重要。
				○	○	若年性認知症の方が利用できる社会資源が少なく、家族の負担が多くなっている。対象者や家族が気軽に利用・相談できる窓口、社会資源の充実が必要。
			○	○	○	支援が必要な本人・家族が通院・周囲の関与を拒否した際に、専門機関やボランティア団体の連携・家族全体を見守る体制づくりが必要。(例：本人が介護保険等サービスを拒否している場合でも明らかに認知症状等がある状態、不登校児に親が学校へ行かなくて良いと思っており、他人の関与も拒否している場合など)
				○	○	要介護状態の親と障害のある子の世帯における各支援者の協働が必要。ケースの日常的な情報交換及び制度を越えた定期的な情報共有の機会があると良い。
			○	○	○	周囲との関係が取れていない独居高齢者等の情報共有(近隣住民や町会・自治会長、マンション管理会社など地域として本人の生活を見守る体制づくり)ができると良い。見守りの輪に医療関係者が加わることにより、生活・健康面を安定させられるとなお良い。例えば、病院の受診日だけ来ないなどの際に、在支や民生委員等に情報共有してもらえれば、訪問のきっかけになり、その後つながりやすくなる。
				○		障害福祉サービスから介護保険サービスへ移行できないケースがあった。介護保険サービスと障害福祉サービスの違いや移行期の対応、本人に提供できるサービスを整理し、関連機関で共有する必要がある。
				○	○	認知症と思われるひとり暮らし高齢者で、近隣住民とごみ出しや金銭貸借でトラブルを抱えている方が、関係機関の関わりを拒否している。時間をかけて関係機関が連携・対応の共有をするとともに、地域の方々へ理解の働きかけをする必要がある。
				○	○	家族が介護保険サービス利用や在支との関わりに消極的な独居高齢者への対応について、関係機関の情報交換、個人情報の取扱いについて共通の取り決めを作る必要がある。
			○		老親と知的精神障害のある子の世帯は、住民票上、民生委員の訪問対象外になってしまう。見守りの対象から抜けないよう、プライバシーに配慮した上での障害の有無を含めたきめ細やかな情報共有やチームでの関わりが必要。	
		○	○	○	不登校、ひきこもりなどトラブルをかかえた家族は他人との交流を積極的にしない傾向にある。身近に悩みや愚痴を相談できるワークショップや相談の場の設置、ハローワークや保健センターとの協力体制が必要。また、学校以外でも近隣や行政のサービスをわかりやすく周知するのも大切だと思う。	
			○	○	小中学生の不登校児が増えており、児童本人だけでなく、家族もケアできる体制づくりやスクールカウンセラーの増員や地域コーディネーターの活用、退職教員のボランティア育成など多面的な考察が必要。	
			○	○	家族関係が悪化している生活困窮者への支援方法。家族それぞれに問題があり、他部署と連携しているが一貫性のない相談で総合的に相談対応できないでいる。家族全体の相談に乗り対応できる場があると良い。	

地域福祉に関するご意見まとめ

※策定委員会…「策」、地区懇談会…「地」、区民アンケート…「区」、専門職アンケート…「専」

		意見収集先				課題・解決策	意見
テーマ		策	地	区	専		
まちづくり				○		横のつながりが無い孤独な人が多くならないように、高齢者、目が見えない人、杖・車いすの人、妊婦、ベビーカーや赤ちゃん抱っこの人が外出しやすい道路や施設にする。	
				○		周りの人の健康やマナーに配慮して、歩きたばこ、たばこのポイ捨てをしないようマナー・ルールへの理解促進をする。	
				○		公園や歩道にきれいなベンチがあると、気持ちよく外出できて、住みやすいまちになる。	
				○		季節毎に花壇にきれいな花の手入れされているとよい。	
情報発信・活用		○	○	○		人はいつ自分がバリアフリーが必要になるかわからない。社会的弱者に目を向けて、地域の施設、道路を整備して、バリアフリー化を進めていく。	
		○	○	○		情報提供、収集方法の工夫が必要。特定の人に情報が集まる、情報取得が得意な人にしか伝わらない。掲示板などの古くからの周知も継続しつつ、他の方法の検討が必要。	
		○	○	○		個人情報の活用範囲の見直し。これまでの住所、名前、電話番号の取得方法だけでなく、インターネット上での会員登録などによる情報発信・収集方法の検討が必要。それにより、本人のタイミングで情報収集でき、取得が不要と思えば自ら登録を解除できるような自由な形態が現代に適している。	
			○	○		活動の周知については、1回断られても根気強く継続して誘う。	
			○	○		町会、高齢者クラブ双方で各イベントの周知(声かけ)を行っており、集客に効果が出ている。	
			○	○		なかなか関与がない人に対面で話せるタイミングがあれば、相手に合わせた別のイベントなどのPRも併せて行う。	
			○	○		情報発信の工夫。予定の発信だけでなく、結果の発信も重要。参加していない人が次回参加したいと思うような発信の工夫が必要。	
			○	○	○	○ 区のホームページにボランティア募集のページがあったらわかりやすい。	
				○	○	○ 高齢者やサポートが必要な方が、いつ、どのようなサポートがあればよいのか、ネットなどで簡単にわかれば、参加の可否を判断しやすい。気軽に空いている時間で人の助けになるのであれば、ぜひ参加したい。	
				○	○	○ 両者(支援する人、受ける人)にとって、メリットが明確に(無理なく)わかりやすいと、実際に動きやすくなる。	
その他			○	○	○	○ キャラクターでわかりやすく伝えるなど、PR方法も重要。	
				○	○	○ 地域主催の街コン、町会の案内が毎月届いたり、図書館にポスター掲示等があると、参加しやすくなり街に愛着がわく。	
		○		○		電車やバスの車内で席を譲られた際に、遠慮する方もいるようだが、譲られる側がありがたく受け入れて座ることも助け合いの関係になる。助け合いは、「助ける」「助けられる」といった関係性では、「助ける」つもりになった人の気持ちを裏切らないようにうまく「助けられる」ことが大切。	
		○		○		子育て世代の転入が増加中。住み続けてもらい、出生率を上げられるような取り組みも必要。	
		○		○		区内では再開発も進み、人口増加などどんどん変化している。地域の変化を読んで計画策定するべきである。	
			○	○		「高齢者」というイメージの払拭。昔の高齢者に比べて、現代の「高齢者」と言われる人(65歳以上)はまだまだ現役世代で若い。	
			○	○		活動拠点として空き家の活用を検討してほしい。	
			○	○		町会を退会する高齢者が増えている。金銭的な問題が主なようだが、これから支えられる側になるはずの人で、地域としては心配である。	
			○	○		夫婦共働きの人が土日など町会活動に費やすことは難しいと思われる。行事などへは参加し、楽しんでもらっているが、その準備や片付けなどほんの少しでも手伝ってくれとありがたい。	
			○	○		外に出てこない人に接する機会があれば、どんなことであれば参加したくなるか聞き取ってみると良いと思う。	
			○		外出しづらくなってきている人が、お休み石を活用しながら休み休み外出している。		
			○	○	○ 忙しい中でも、たくさんアイデアを持つ人、活動に意欲的な人もいる。プロボノも含め、条件を満たした団体や活動の支援、助成するなどの仕組みを考える。すでにある公共団体以外の企業、NPO、地域活動等の民間の力と連携を進める。		
			○	○	○ ボランティアも義務になったり、無理をすると苦しくなる。リーダーが必要だが、リーダーに対しては少しでもよいので対価を考えた方がよい。		
			○	○	○ 「参加しなければ罰金」とまでいかなくても参加を義務づけるなど、区民を呼び込む、巻き込む仕掛けが必要。		